

名所再生「幕岩」公園化

2年がかり、喜び分かち合う

諏訪市四賀普門寺区の有志ら

諏訪市四賀普門寺区の有志が中心となって名所再生に取り組んできた地元の採石場跡地「幕岩」の公園化が完工し、20日、区民と行政や地元の関係者を招いてお祝いの式典が現地で行われた。昭和30年代の操業以降、雑木が茂り、ごみの不法投棄で荒廃した地を根気強く切り開き、地域住民、行政への理解と協力も広げながら2年がかりで完成。やり遂げた誇りを胸に、喜びを分かち合った。(日比野真由美)

有志の東山地域里山活性化プロジェクト(伊藤為幸代表)が、次代につながる地域を作ろうと、地元の名所旧跡に手を入れて光を当てる活動の手始めに取り組んだ。数人の有志からスタートし、その熱意が区民、山林管理の関係団体、地元企業の共感を呼び、延べ350人以上が作業に汗



幕岩を背景に和太鼓やラッパ、木遣りが彩りを添えた式典

した。市、県も支援を寄せた。作業で木の茂りに隠れていた高さ30m超、幅数百mに渡る平石の壁「幕岩」があらわとなり、造形の壮観さとともに諏訪の産業の歴史を物語る「遺産」の価値も高まった。西側は諏訪盆地一望の景観が生まれ、古御柱を使った展望デッキ、休憩場所、トイレなどを配した。

式には約150人が参加。伊藤代表は「多くのいろいろな人の協力で完成できた。本当にうれしい」と感謝し、次



完工を祝って制作した幕岩の四季のカレンダー

の名所再生への意欲をみせた。金子ゆかり諏訪市長、竹花頭宏卓地域振興局長らが祝辞を寄せ、地元の足長剛勇太鼓、木遣り、四賀ふもんじラッパ隊が演奏で彩を添えた。同太鼓連はオリジナル曲を初披露、ラッパ隊も昨秋の発足以来初めての舞台で、巨大な岩が反響板となって迫力ある音色が広がった。

初めて訪れた地元の女性たちは「こんなに素晴らしい場所があると知らなかった。皆の力はすごい。末長く楽しい公園であってほしい」と感じ入り、メンバーの一人でもある百瀬淳一区長は「当初は想像もできなかった見事な眺め。酷暑の中でもみんな一生懸命に頑張ったかがある。しっかりと維持管理していきたい」と話した。

幕岩公園の四季カレンダー制作

公園完成を祝って同プロジェクトは、幕岩公園の魅力を伝えるカレンダーを制作した。メンバーが撮り貯めた約2000枚の中から四季折々の景色を収録した。式の記念品とし、区内全戸に配布する計画だ。